

長子配付

令和2年12月3日

保護者様

唐津市立納所小学校
校長 福田 浩一郎

児童数減少に伴う今後の動向について

師走の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、9月に行いました育友会役員会の折、唐津市教育委員会教育企画課より、肥前中校区小学校3校の今後の動向についての説明がありました。先月、小学校3校の説明が終了しましたので、役員さんだけでなく、保護者の皆様や地域の皆様に、考えていただきたい内容でしたので、この紙面でお知らせいたします。

年々進む少子化の影響で、唐津市内でも多くの学校の児童数が減少の一途をたどっています。本校も同様の傾向で、現在の児童数は72名となっています。

1学級の人数は「標準法」という法律で定められており、その中で「2つの学年の児童数が16名以下の場合、複式学級として編制(小1を除く)」という内容の項目があります。本校は、令和8年には、複式学級に該当する学年が出てくる予定です。

この複式学級を学年に応じた学習が出来るように、現在の唐津市では「複式学級補助教員」という臨時職員を雇用しています。ただし、そのなり手となる教員(退職した先生など)が不足しており、必ずしも「複式学級補助教員」を雇用できるとは限りません。補助教員が見つからない場合は、正規の教員が2つの学年の担任となります。この複式学級の問題は本校だけのことではなく、同じ中学校区の田野小や入野小は、来年度や再来年度に、複式学級が出来るそうです。

そこで、教育委員会の提案が「学校の統廃合」です。納所小・田野小・入野小の3校を1つの新設校にするという案です。こうすると、1学級はどの学年も30人前後となり、少なくとも複式学級は出来ないこととなります。

統廃合により、様々なメリットやデメリットが考えられます。教育委員会としては、突然、統廃合問題を出して混乱されないよう、現状と提案をお伝えして今後、地域の方に検討していただきたいということでした。当然、本校だけでなく他の2校の意向も関わってきますし、統廃合という方向に進んだとしても実現するには数年かかるそうです。担当の方は今後、保護者や地域の方が話題の1つにさせていただき、方向性をまとめていくって欲しいと話されました。なお、この統廃合問題はあくまで地域や保護者と教育委員会の間で協議していく問題であり、学校は中立の立場となります。今後、疑問や意見が出てくるものと思われます。その際は学校を通すことも可能ですが、回答できないことが多くあると思います。ご意見やご質問は以下の担当課にお願いします。

唐津市教育委員会 教育企画課 企画係長 岡田さん (TEL 72-9212)